

伝統芸能文化創生プロジェクト

2023年度 事業報告書

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(TARO)



— 発行 —

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス

〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2 京都芸術センター内

TEL 075-255-9600

FAX 075-213-1004

e-mail taro@traditionalarts.net

URL <http://www.traditional-arts.org>

公式 LINE @taro_kyoto

— 発行日 —

2024年3月31日

伝統芸能文化を

未来へ

Traditional Arts
Archive
&
Research
Office

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(TARO)

1 伝統芸能文化創生プロジェクトについて

■「伝統芸能文化創生プロジェクト」と「伝統芸能文化センター」構想

「伝統芸能文化センター」は、2011年に京都市が策定した「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）基本構想」（素案）に示されている“伝統芸能文化の継承・創造の拠点施設”です。センターが備えるべき機能として以下の6つが掲げられています。

- 1 伝統芸能に関する学術研究
- 2 伝統芸能に関する創造・普及
- 3 楽器・用具用品に関する相談・支援
- 4 ネットワーク・コーディネート
- 5 全国発信・地域間交流
- 6 海外発信・国際交流

この6つの機能の実現のため、先行的に実施した2007～2013年度の「京都創生座」や2009～2016年度の「五感で感じる和の文化事業」では、流派を越えて伝統芸能の持つ力を引き出す創作・公演や、国内外への発信・交流、一般市民への普及等に取り組んできました。その成果を引き継ぎ、2017年度からは「伝統芸能文化創生プロジェクト」として、上記の6つの機能を更に強化するための活動を行っています。この「伝統芸能文化創生プロジェクト」を推進する主体となるのが、京都市と京都芸術センター（2007～2022）、公益財団法人京都市芸術文化協会（2023～）から成る伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス（TARO）です。

■ 伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス （Traditional Arts Archive&Research Office 略称:TARO）

TAROは、「伝統芸能文化センター」に必要とされる機能の確保・強化に取り組む事務局として2017年度に京都芸術センター内に設置されました。伝統芸能の継承や保存、用具・用品とその材料の確保、普及・創造・発信活動など、伝統芸能文化の総合的な活性化の観点から、ネットワークの構築や基礎調査等を進めています。

■ 「伝統芸能文化センター」構想の経緯

2003年度	京都創生懇談会より「国家戦略としての京都創生の提言」提出
2004年度	「歴史都市・京都創生策」策定
2006年度	京都創生研究会「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）」分科会を設置。2008年度まで検討（全9回開催） 「歴史都市・京都創生策II」策定→国へ要望 「京都文化芸術都市創生計画」策定→「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）の整備」が重点課題に
2007年度	「京都創生座」事業の実施（～2013年度）
2009年度	「五感で感じる和の文化事業」の実施（～2016年度）
2011年度	「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）基本構想（素案）」策定→国へ要望（以降、毎年度要望） 「京都文化芸術都市創生計画 改訂版」策定→重要施策群1：継承と創造に関する人材の育成等に位置付け
2014年度	「創生劇場」の実施（～2016年） 「京都文化芸術プログラム2020」策定→プログラムを牽引する重要事業に位置付け
2016年度	「第2期 京都文化芸術都市創生計画」策定→8つの最重要施策のうちの1つに位置付け
2017年度	「伝統芸能文化創生プロジェクト」の実施 「伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス」を京都芸術センター内に設置

目次

1. 伝統芸能文化創生プロジェクトについて	p.1
2. 伝統芸能文化とは	p.2
3. 実施事業	
実施事業一覧	p.3
a. ネットワーク構築	p.4
ー ネットワーク先リスト	
b. 伝統芸能文化の現代に適応した形での活性化	p.5～15
ー 伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム	
c. プロジェクト 報告会	p.16～19
d. 相談窓口	p.20～21
e. 参加・協力事業	p.22～23
【参加事業】文化庁移転記念「日本の技フェア」	
【参加事業】企画展「京都の祭り行事」	
【協力事業】特別展「どうする江戸の音楽 天下泰平の世に花開いた楽器 三味線」	
【協力事業】落語会の開催	
f. ウェブサイトとYouTubeチャンネル運営	p.24～25
g. 伝統芸能文化創生プロジェクト推進会議委員より	p.26～27

2 伝統芸能文化とは

TARO が対象とする伝統芸能文化は、古典芸能（落語、漫談、義太夫、奇術などの演芸も含む）や民俗芸能（広義の儀礼・祭礼・年中行事等を含む）、これらに不可欠な材料・道具の製作に係る伝統工芸技術に至るまで、極めて多岐にわたります。

伝統芸能文化創生プロジェクトでは、以上のように「伝統芸能」に係る多くの分野を総合した概念として「伝統芸能文化」という言葉を用いています。

歴史を通じて形成されてきた精神性、美的感性、文化的価値が総合的に凝縮されている伝統芸能文化は、言語や文学の伝統と同様に失ってはならないかけがえないものです。

	古典芸能	民俗芸能
伝承者と鑑賞者	専門の実演家によって、目の肥えた観客を相手に演じられてきた。	芸能専門ではない伝承者によって、信仰行事の一環として、神仏に奉納するために演じられてきた。
内容	日本で近世以前に創始され、現在も実演されている芸能。能・狂言・歌舞伎・文楽・日本舞踊・邦楽・落語・講談など。	五穀豊穡・長寿・悪疫退散などを神に祈って行われる民間の信仰行事に伴い、各地域社会で伝承されてきた芸能。郷土芸能。
上記に係る伝統工芸技術や楽器・用具用品、材料等		
古典芸能、民俗芸能に用いられる楽器・用具用品、またそれらを作るために必要な材料や伝統工芸技術。		



3 実施事業

■ 実施事業一覧

a ネットワーク構築

ネットワーク先リスト

b 伝統芸能文化の現代に適応した形での活性化

伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム

c プロジェクト報告会

d 相談窓口

e 参加・協力事業

【参加事業】

文化庁移転記念「日本の技フェア」

企画展「京都の祭り行事」

【協力事業】

特別展「どうする江戸の音楽 天下泰平の世に花開いた楽器 三味線」

落語会の開催

f ウェブサイトとYouTubeチャンネル運営

g 伝統芸能文化創生プロジェクト推進会議委員より

a ネットワーク構築

— ネットワーク先リスト

TARO は、伝統芸能文化の保存・継承・普及・アーカイブ等に取り組む下記の機関・施設等とネットワークを作り、情報共有と連携を図っています。

※ は 2023 年度からの新規追加です。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> アサノ楽器 | <input type="checkbox"/> 古典芸能よせびっ |
| <input type="checkbox"/> 栗田神社剣鋒奉賛会 | <input type="checkbox"/> 嵯峨大念佛狂言保存会 |
| <input type="checkbox"/> 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 | <input type="checkbox"/> 鯖江人形浄瑠璃「近松座」 |
| <input type="checkbox"/> 新阿弥 | <input type="checkbox"/> サンコーエンジニアリングプラスチック株式会社 |
| <input type="checkbox"/> 今井三絃店 | <input type="checkbox"/> 鹿角工芸 ハタリ源角堂 |
| <input type="checkbox"/> 石見神楽産業化モデル事業実行委員会 | <input type="checkbox"/> 茂山千五郎家 |
| <input type="checkbox"/> イサミヤ邦楽器店 | <input type="checkbox"/> 次代に邦楽をつなぐプロジェクト |
| <input type="checkbox"/> 一般社団法人 全国邦楽器組合連合会 | <input type="checkbox"/> 千本ゑんま堂大念佛狂言保存会 |
| <input type="checkbox"/> 鹿児島市文化振興課 | <input type="checkbox"/> 曾於市立財部北小学校 |
| <input type="checkbox"/> かごしま文化情報センター | <input type="checkbox"/> 大学共同利用機関人間文化研究機構 |
| <input type="checkbox"/> 加勢島保存会 | <input type="checkbox"/> 田中製紙工業株式会社 |
| <input type="checkbox"/> 交野ヶ原 交野節・おどり保存会 | <input type="checkbox"/> 田中村六斎念仏保存会 |
| <input type="checkbox"/> 株式会社篠笛文化研究社 | <input type="checkbox"/> 地方独立行政法人京都市産業技術研究所 |
| <input type="checkbox"/> 株式会社鳥羽屋 | <input type="checkbox"/> 知立山車文楽・山町人形連 |
| <input type="checkbox"/> 株式会社宮本卯之助商店 | <input type="checkbox"/> 伝統芸能の道具ラボ |
| <input type="checkbox"/> 上鳥羽橋上鉦講中 | <input type="checkbox"/> 東京鹿踊 |
| <input type="checkbox"/> College Impact Japan | <input type="checkbox"/> 東条播州音頭踊り保存会 |
| <input type="checkbox"/> 木之本町邦楽器原系製造保存会 | <input type="checkbox"/> 独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター |
| <input type="checkbox"/> 岐阜県産業技術センター繊維・紙業部 | <input type="checkbox"/> 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部 |
| <input type="checkbox"/> 岐阜県立森林文化アカデミー | <input type="checkbox"/> 十津川盆踊り実行委員会 |
| <input type="checkbox"/> 九州の神楽ネットワーク協議会 | <input type="checkbox"/> 十津川村総務課企画グループ |
| <input type="checkbox"/> 京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室 | <input type="checkbox"/> 富田人形共遊団 |
| <input type="checkbox"/> 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 | <input type="checkbox"/> 奈良県地域振興部文化財保存課 |
| <input type="checkbox"/> 京都市歴史資料館 | <input type="checkbox"/> 能楽大連吟実行委員会 |
| <input type="checkbox"/> 京都市立御所南小学校 | <input type="checkbox"/> ひつつん保存会 |
| <input type="checkbox"/> 京都伝統産業ミュージアム(公益財団法人京都伝統産業交流センター) | <input type="checkbox"/> 福居一大会館島ごったん部 |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人加東文化振興財団 | <input type="checkbox"/> 福知山伝統文化を守る会 |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人鼓童文化財団 | —— NPO 法人丹波漆、福知山藍同好会(由良川藍)、 |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人札幌市芸術文化財団 | —— 丹後二俣紙保存会(丹後和紙) |
| <input type="checkbox"/> 公益社団法人全日本郷土芸能協会 | <input type="checkbox"/> フリースタイルな僧侶たち |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人日本伝統文化振興財団 | <input type="checkbox"/> 文化庁文化財第一課 |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人浜松市文化振興財団浜松市楽器博物館 | <input type="checkbox"/> 邦楽ジャーナル |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団 | <input type="checkbox"/> 三股町企画商工課 |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人未来工学研究所 | <input type="checkbox"/> 宮崎県オールみやざき営業課 |
| <input type="checkbox"/> 公立大学法人京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター | <input type="checkbox"/> 社播州音頭踊り保存会 |
| <input type="checkbox"/> 国際日本文化研究センター(日文研) | <input type="checkbox"/> 八瀬郷土文化保存会 |
| <input type="checkbox"/> 国立能楽堂(独立行政法人日本芸術文化振興会) | <input type="checkbox"/> 有限会社十松屋福井扇舗 |
| <input type="checkbox"/> ゴッタン成音会 | ほか(50音順) |

b 伝統芸能文化の現代に適応した形での活性化

— 伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム

伝統芸能文化において支援を必要とするプログラムを公募し、内容を審査したうえで、TAROとの共同プログラムとして実施しました。

「伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム」は助成金ではありません。提出された申請書を基に計画から運営まで申請者とTAROが共同で行うという全国でも他に類を見ないものです。申請者とTAROのいずれか一方だけでは実現できないような取り組みを共同で実施することで、伝統芸能文化に新しい波を起こすことを目指しました。

今年度は17件の応募があり、審査を経て1件を採択しました。現在過去に採択した事業とあわせて8件の事業を実施しています。

1. 目的・特徴

伝統芸能に用いられる楽器・用具用品の復元や、伝統芸能文化を現代に適合した形で活性化させようとする取組を、TAROと共同で実施しました。

2. 募集する事業

- ア 伝統芸能文化の保存、継承、普及、活用のために必要な取組
- イ 継承に関して緊急性・必要性が高く、関係機関の協力が必要な取組

3. 対象者

研究者及びコーディネーター、実演家、職人、地域の文化を保存する方々など

4. 伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィスが負担する金額上限

上限100万円

5. 募集期間

2023年4月3日(月)～6月30日(金)

▶ 現在進行中の事業

— 令和元年度 伝統芸能文化復元・活性化プログラム採択事業

十津川盆踊りの伝承・保存・活用発信

申請者：十津川盆踊り実行委員会（実行委員長 佐古金一、事務局 土井麻利江）



国・村の文化財指定の有無に関わらず、各字で異なる特色を持つ十津川盆踊りの現状調査、演目の復元、ネットワークの構築に取り組み、それに応じた伝承・保存方法を提案します。伝統芸能を地域振興にも活かす方法を模索し、プロジェクトの過程と成果を情報発信します。

● 現在の進捗と今後の予定

「風流踊」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを記念して、7月に奈良県立図書情報館の主催で「祝!ユネスコ無形文化遺産登録「風流踊」十津川村の盆踊り」が開催されました。企画展と盆踊りを習うワークショップ、鑑賞&講演会の申し込みは定員を超え、会場では十津川盆踊りが紹介されるとともに、今後祭りをどのように継承していくかについての意見交換が行われました。

夏は、コロナ禍で封印されていた全国の盆踊りが再開され、十津川盆踊りも2023年8月13日から15日に10字の内、9字が開催するために準備していました。が、お盆に台風襲来のため、5字の開催にとどまりました。

11月、日本青年館で開催された「第70回全国民俗芸能大会」に、十津川村から、武蔵と小原の保存会が出演しました。大会では2時間にわたり十津川盆踊りを体感できる時間となり、幅広い発信となりました。大会の出演に伴い、十津川村では盆踊りの稽古が再開できたことが大きな成果です。



— 令和2年度 伝統芸能文化復元・活性化プログラム採択事業

見島のカセドリ藁蓑製作技術の確保計画

申請者：加勢鳥保存会（代表：武藤隆信）



見島のカセドリで使用する藁蓑は、経年による劣化が目立つが、保存会に藁蓑を製作できる技術がなく、また製作できる技術者もいない状況です。そこで、各地の藁蓑に係る団体や機関をリサーチし、藁蓑を製作できる技術者を確保し、技術者を講師として招聘することで、製作技術の伝承を行います。また、その過程を冊子や映像に記録保存し公開することで、将来にわたり継続して藁蓑の製作技術が伝承される体制を構築し、全国のモデルとなることを目指します。

※ 見島のカセドリ：佐賀市蓮池町の見島地区で小正月に行なわれる行事。平成30年に「来訪神：仮面・仮装の神々」のひとつとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。

● 現在の進捗と今後の予定

9月8日から3日間、川崎市にある蓑製作職人のアトリエで対面の講習会を開催しました。見島のカセドリ保存会から4名が参加し、蓑製作職人より今までオンライン講習会で身につけた蓑製作の実技指導や、行事の特徴上損傷が激しい箇所を修繕方法を学ぶことができました。今回、蓑製作職人が提案・指導している蓑製作は制作段階において傷んだ箇所を修繕することも想定した製法であるため、部分修繕が可能となりました。これにより、保存会のメンバーが昭和中期より使用している蓑が修繕可能になり、次の蓑を皆で製作していこう!と意欲が高まるなど、対面での技術継承の重要性をあらためて実感しました。また、対面での講習のほか、これまで開催したオンラインでの記録をまとめました。

今後は引き続き、蓑の繋ぎ目部分の製作工程を学ぶと共に、蓑製作の作り方を冊子・動画にまとめて発信していく予定です。



— 令和3年度 伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム採択事業

古物重厚意匠糊地能楽扇の写し製作

申請者：有限会社 十松屋福井扇舗（代表：福井芳宏）



能楽や日本舞踊等で用いられる舞台用の扇には重厚細密な扇面絵が描かれているものがありますが、近年では製作の機会が著しく減少しています。そこで、京都在住の能楽シテ方の家が所蔵する扇の「写し」を通じて、高度な扇面上絵技術の継承を行います。また、製作できる職人が減少している古式の扇面地紙「糊地」については、素材分析によって現在主流の「合わせ地」との違いを明確にし、その工芸的価値と舞台効果を周知します。製作した扇は、実際の公演で仕上がりを確認します。

● 現在の進捗と今後の予定

写し扇として能楽の中啓扇「能中啓 クロ骨仕立 糊地本金製 重き花戦花車図」(※観世流では紅入鬘扇として使用されています)と京舞扇「井上流 シロ骨仕立 糊地本金製 五段近衛引き 天砂子降りばかし花の丸図・打抜き両面」の2本を選定し、製作工程ごとにまとめる形で記録作成を行いました。現在、能楽の中啓扇の上絵の製作工程を記録にまとめています。京舞扇の写し製作については、近衛引きの職人に話を伺うことで、道具として使用する筆の製作者が京都でいないことがわかりました。

12月に井上八千代氏をご出演された公演にて本事業をご紹介いただき、地歌「菊」で写し扇の試奏(お披露目)を行いました。アンケートには、「光をうつす糊地が美しかった」という声もあり、おおむね好評でした。

今後も写し扇の製作工程記録を作成するとともに、発信手法についても探索していきます。



笛譜・唱歌製作による石見神楽の継承円滑化事業

申請者：石見神楽産業化モデル事業実行委員会（代表：日高均）



島根県を代表する郷土芸能である石見神楽の笛は、演者の口伝や独学によって受け継がれてきましたが、特に若い世代において技術習得が難しい状況にあります。そこで、本事業では、京都の民俗芸能関係者と協力して、譜面とオノマトペ(擬音)による口唱歌を作成し、笛の稽古を円滑に行えるような指導方法を確立させることを目指しています。その指導方法を他地域の石見神楽の笛指導者と共有することで、笛の担い手の円滑な継承を図ります。

● 現在の進捗と今後の予定

昨年度、京都の民俗芸能関係者とともに、石見神楽の笛奏者にとって基準の曲となる「神舞」を五線譜、邦楽譜、実演者が創案した唱歌の三つを一つの楽譜に落とし込み完成させました。そのうえ、今までは各地域にてオリジナルで「神舞」が歌われてきましたが、各団体の笛指導者により石見神楽の演目を歌詞に盛り込んだ、共通の「神舞」の口唱歌も作成しました。

9月、各地域・保存会を越えて笛を演奏する若手世代を増やすことを目的に、第一回「石見神楽笛教室」を開催しました。想定以上に参加者は集まり、若い世代から「笛は難しいけれど学んでみたかった」という声もありました。あわせて、京都の民俗芸能関係者と現地の笛指導者が交流会を行い、若い世代に向けた教え方や関心を持たせる手法について意見交換を行いました。

教室はその後も継続して開催するとともに、現在、笛譜・唱歌製作のプロセスをまとめています。



三味線音楽のScratch教材開発：

常磐津節を通じて日本の伝統芸能に親しむための教育プログラムづくりとその普及の試み
申請者：次代に邦楽をつなぐプロジェクト（代表：重藤暁）



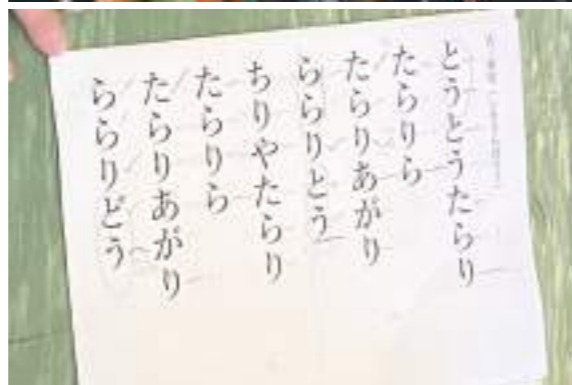
GIGAスクール構想の実施に当たって、小学生を対象とした日本の伝統音楽に関する教材を大学や研究機関と協働し、ビジュアルプログラミング言語(Scratch)で開発します。協力が得られる小・中学校でテスト運用し、そのフィードバックを踏まえて改良を行い、教材と指導マニュアルをウェブ上で公開します。また、教員向け研修会を開催し、本教材を小・中学校の授業実践に活用してもらうための普及活動を行います。

● 現在の進捗と今後の予定

昨年度、関東の公立小学校で実施した授業内容と受講児童のアンケート結果をもとに課題抽出を行いました。その結果、開発中のプログラムは各所で手軽に使用してもらいたいが、現行のプログラムでは三味線の演奏家がいないと使用が難しいこと、先生側のプログラムの理解度によって授業の精度が変わること、授業を実施する先生たちが、生徒の成績をどの点で評価すべきかの3点が主な課題としてあがりました。

11月に関東の公立中学校で2年生を対象に、Scratchを使用せず音源だけを手掛かりに床本を解説する形態で授業を行い、受講生徒にアンケート調査を実施しました。その結果、「三味線を弾いてみたいか」などの意欲に関する質問は、小学生に行ったアンケートよりも高い評価がみられました。

今後は、来年度に改定される学習指導要領に対応した学習指導案をまとめるなど、教材と三味線音楽双方の観点からScratchの改良を行うとともに、関西の学校で授業を実施しさらにプログラムの精度を高めていく予定です。



— 令和4年度 伝統芸能文化復元・活性化プログラム採択事業

若手へ向けた鯖江人形浄瑠璃の技能継承と他地域との交流

申請者：鯖江人形浄瑠璃「近松座」（代表：大橋國利）



地域文化である鯖江人形浄瑠璃を若手に継承していくために、各役割に分けた演目の動画配信など若手が今後継承しやすい形で記録作成を行います。

また、他地域の浄瑠璃団体とネットワークを構築し、浄瑠璃を学ぶワークショップや課題共有会を合同で行うことで、他の浄瑠璃団体の若手と交流する機会を設け継承を促進します。

● 現在の進捗と今後の予定

他地域の浄瑠璃団体の若手継承への手法を模索するべく、10月に近松座と以前から交流がある人形浄瑠璃に関わる団体・個人のゲストを招き、「私たちの人形浄瑠璃について語る」を鯖江市文化センターで開催しました。

乙女文楽の桐竹蘭紗也氏は一人遣いである芸能の特徴と、ご自身がなぜ乙女文楽を継承するに至ったかについて、知立山車文楽・山町人形連は山車文楽の特徴と重要無形文化財やユネスコ無形文化遺産の登録について、富田人形共遊団は地域の伝統文化を海外にも発信・継承する活動について報告され、意見交換を行いました。

あわせて、「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」の映像撮影を行い、舞台の正面からだけでなく、人形遣いによる細かい手元の動きや人形の簪の落とし方、火の見櫓の中の人形遣いの動きがよりわかるように舞台後方からの撮影も行いました。また、高校生の座員に人形浄瑠璃を学んで感じることや課題についてのヒアリング調査も行いました。

今後は、「寿式三番叟」の撮影を行い、昨年に撮影した「傾城阿波鳴門 巡礼歌の段」と若手世代が興味を持てるような映像作成を通して若手世代の芸能継承へ繋げていく予定です。



社・東条を中心とした播州音頭踊りの継承と発信プロジェクト

申請者：社播州音頭踊り保存会（代表：中原公寿） 東条播州音頭踊り保存会（代表：邦近従宏）



高齢化が進む播州音頭踊りにおいて、ダンサーである京極朋彦（京極WORKS）がコーディネート役となり、社播州音頭踊り保存会と東条播州音頭踊り保存会の2団体が合同で協力し、音頭の音頭取りや踊り手のインタビュー取材、また各保存会の演目の映像記録、播州音頭のPR動画を作成することで、芸能の伝承を図ります。

また、同じ課題をもつ他地域の芸能団体とネットワークを構築することにより、地域を越えて伝承手法や成果を発信していきます。

● 現在の進捗と今後の予定

4月に播州音頭の歴史や保存会のインタビューを掲載した冊子を刊行し、地域や民俗芸能関係者への配布・発信を行いました。加えて、本事業の協力団体である公益財団法人加東市文化振興財団が播州音頭の音頭のアーカイブを立ち上げ、地域で芸能継承の意欲が高まっています。5月に社・東条、両保存会とダンサーである伊東歌織氏（京極WORKS）を講師に、播州音頭踊りの音頭と踊りのワークショップを実施しました。ワークショップには、県外からも踊りが好きな若い世代や姫路、明石などの地域から播州音頭踊り関係者も参加するなど賑わいを見せ、「風流踊」のユネスコ無形文化遺産の登録による人気を実感するとともに、播州音頭の幅広さを知る機会になりました。その流れを受けて、8月には加東市文化振興財団主催で「播州音頭踊り大会」を開催され、両保存会と吉川音頭踊り保存会、三木吉川音頭保存会、加西市播州音頭踊り保存会の踊りが披露されました。本事業のコーディネート役かつダンサーである京極朋彦氏が大会の全体演出を担うことで、新たな民俗芸能の継承のあり方をみることができました。

今後は、昨年度に撮影した演目の映像動画および播州音頭をPRする動画作成に取り組むとともに、継承が難しい音頭取りの養成を検討していく予定です。



— 令和5年度 伝統芸能文化復元・活性化プログラム採択事業

郷土芸能の若手継承に向けたネットワークの構築と発信手法の探索

申請者：京都郷土芸能「活性化してやろう」会（代表：浅野高行）



民俗芸能において若手世代への芸能継承を円滑に進めるために、各芸能団体の中堅世代が定期的に集い、課題共有を行う場・機会を作り、現状を把握するとともに芸能そのものを発信する冊子および動画の作成に取り組みます。

あわせて道具の軽量化、継承へ向けたシンポジウムを開催することで、その成果とプロセスを幅広く他地域へ向けて発信していきます。

● 現在の進捗と今後の予定

10月に、申請者である京都郷土芸能「活性化してやろう」会と話しあい、民俗芸能やその道具製作者など各芸能団体や関係者が集い、課題や現状共有を行う交流会を定期的に開催することから取り組むことにしました。また、交流会の位置付けについては、京都市文化財保護課の専門職員の助言をもとに、各回ゲストを迎えながら交流する形式をとりました。

第一回は12月に千本ゑんま堂大念佛狂言保存会をゲストに、芸能地域外から芸能に関わるようになった経緯や若手世代への継承・課題などをお話いただき、参加者と共に意見交換を行いました。参加者も芸能に関わる方が多く参加しており、それぞれが抱えた課題を話しながら交流する形でスタートを切りました。第二回目は、2024年3月に原谷弁財天太鼓保存会をゲストに実施しました。

今後も定期的に交流会を開催することで、民俗芸能に関わる中堅世代のネットワークを構築するとともに、道具の軽量化については女性でも使いやすい新素材による道具の開発に着手する予定です。



■ すでに完了した事業

「伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム」で共同実施した事業は事業報告書を発行しています。過去に発行した事業報告書や冊子はTAROのウェブサイトに掲載しています。

一 平成30年度 伝統芸能文化復元・活性化プログラム採択事業

上鳥羽の芸能六斎の復活を目指してー祇園囃子の創作

申請者：上鳥羽橋上鉦講中（代表：熊田茂男）



事業報告書



冊子『京都の民俗芸能 上鳥羽六斎念仏』.....



ゴッタンゴッタンの製造技法および基礎資料のアーカイブと交流ネットワークの創出

申請者：ゴッタンプロジェクト（代表：橋口晃一、黒坂周吾）



事業報告書



冊子とDVD『ゴッタンの作り方』.....



冊子『ゴッタンを語れ!』.....



『ゴッタンの作り方』のデータによる公開は一部サンプルのみとなっています。完全版の冊子をご希望の方は、お名前、ご住所、電話番号を明記の上、e-mailにてご連絡ください（欲しい理由もお知らせいただくと今後の参考にさせていただきます）。着払いの宅急便にてお送りいたします。
e-mail : taro@traditionalarts.net

柳川三味線のための胴皮新素材開発

申請者：林美恵子（柳川三味線）



事業報告書



一 令和元年度 伝統芸能文化復元・活性化プログラム採択事業

新素材による鉦すりの試作と生産業者の探索

申請者：祇園祭囃子方連絡会（代表：木村幾次郎）



事業報告書



新内節新内節の発信と保存プロジェクト

申請者：新内節の発信と保存プロジェクト（代表：新内志賀）



事業報告書



冊子『新内節を語る 講和録』.....

冊子は1冊ですが、PDFデータが前後編になっています。



前編 後編

